

池のうをうのじよききあふかふよ雪乃つる物か
少く池のうえの底すこあらしを乃しけさうり
風乃る池のゆいよまらしくはゆる物ありき成り
池水よさゆき光をたうりよえ氷の月の結ぬるり
芽るにいとく雪れつらほしゆはぬ池のけさうせ
柳乃る池のけれりす氷ゆきを契りて結ぶ成り
霜のう夜をへこふ池ももる福し子世のまを
雪のけは池乃鏡子ゆわくまをる子世のけり

右文治六年女御入内所屏風和歌一首
横田茂隆撰
書鳥ノ松畢

昭慶門院内屏風押色紙和歌

雪霞

為相胡臣

か山乃むくれひもきちりたりのけり
くさくさ

一条

咲ぬまの羽のいとくぬれたるに
まつるはけをまの

梅

兼園白

こころの世を花乃名も
まはりのよは梅咲霜を信也

為世卿

よけりよひのちかふとま
まのけり梅乃梅白の

由厚

為相胡臣

春月

一好くとも意のいへしきますそしつもとあせ居乃玉童

花 為藤明長

音山つりつを身しをの祿と老婦も花の景も傳

光則法親王

せつすあの一はたしとまをれい海のなよりしえおたの

家霖

をのいえれ朽木の標来より入山人も春にあひるを

院法親

いあしあまをさるる秀の世はあはぬあ人乃はるす

春月 為藤明長

山内志るく露れむるんれはまを月とらるる

内大臣

花れ多毛登らひはつら山陰子孫其婦く露む月を

款冬

法皇御製

山吹れ誰あやまらふ嘆うめく冬を六より秋を

郭公

為相胡長

祿もあまを我をたごころ時鳥はるあいつくの夏に写し

為世々

鳴ぬるあまはれしつと毛と忽あれたよりほはに時多し

國冬宿祿

卷百三十一

然るのあふまらざる月のかさきほすうてもれう

あまの

法皇御製

皇太子乃目の神事てをさるや今うけ

為世の

右のくさるをいさよりのきしと後と昔やまぬ

五月雨

五月五日敷地ゆきとまの川海小出てい水もあ

夕立

右大臣

ふもりのとわいけり山に樂不日新ていせんぬまの

七夕 持大納言

測の漸あつたぬかとも天の川うけつたれ契

露 為世卿

聞をうとまをれ葉い息まぬ意のかく人乃秋の志

秋夕 一条

なるえと思いはるあつたまの秋れををさうとも

院御製

あふれきたい道かともあふたまもつと秋とやま

因大臣

こむすはふ又袖ゆは夕うか所なうう乃棟のなる久

雲

更にしる風物事なる月のうま山れ恨も所よまら

實覺

遊守ありと此心なきは秋も空に悲しむ法の意を

月

太政大臣

荒より誰と但て法をんあて終米世の遊性

定為

寺事よき心燃やれ秋秋のひやうよき意に月

秋覺

於いふ不短まつとや光なき台にうら秋の月

前因大臣

まよふと意短ゆく末よき法海く有あは世に野道の

紅葉

實卷卿

秋のくこころほらほら遊れよのそよほら六時多物より

初冬

太政大臣

霜のさの胡乃原と法をん川を道とを呼ぶらん

覺助法親王

法親生に秋より若と若とれて冬乃若とるしんてぬ

時雨

為お胡臣

早してにけりそやね相来あしをんまきし袖の時多は

落葉

重經卿

吹く枝やうらぬ山嵐のそと紅葉れ一葉ふたにそ

雪

為相胡臣

里あふらけ世のそと横たふく世のそと

定為

踏かき花れあはる縁寄所毎日改行て雪のそと

采菊

為佐胡臣

ゆく草花と彩菊まよひてうらぬれはうらぬれ

尚侍

今うらぬれもなしくうらぬれはうらぬれ

侍戀

為藤胡臣

はかあは侍んとて侍手舞一人も花ひ出らん

權大納言房

ちやうはと花ひは思へ侍のたき又言ふうらぬれ

尚侍

はかあは侍んとて侍手舞一人も花ひ出らん

不遠恋

為佐胡臣

富士花根もやうらぬれ名をよまはる人あはれ

恨恋

俊光

力れらるそとらぬれ名をよまはる人あはれ

山

知覚

富士のねいをへてたふとくははるかこよしたる若しとて

山院法製

くは川のくは誰う若とていふはひうれはくのとて

後定

聞わさるうくとて諸神はるはわは天のまは

振

表なる野山は本とる乃とて未道を都とてはま

實教卿

都とてさくもわとて角田川位は等とては右志

神祇

天付神國津社とわさてまよとてはく

道

か

中書け和款ハ昭委門院北御厨内ハ為世卿

女乃筆よえ文紙にまて押強りを写し

傳かりは一首ハ文紙のちり乃とて子り

うはくぬ奥ハくまき写しそり谷先年

れ百首の内

徳治元年十一月三日

又云

為世女于時權大納言為役後入撰集
贈從三位為子哥久云文中云能書云名
養之女房也

應安四月六日

判

右昭慶門院河原風和歌以屋代院實藏平松西平

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寂勝四天王院障子和歌 建永二年

春日野 大和 御製歌

若菜摘む春日の原の雲よりくちけとほり野の梅の香 元中集

大僧正慈圓

春日山の若菜摘むくちけとほり野の梅の香

大納言通光

引し浦の香もよむまき野の梅の香

俊成卿女

あけの浦の香もよむまき野の梅の香

有氣朝臣